

教員名 後藤こず恵

企画名  
第4回神戸イノベーターズグランプリ(研究演習2)

商品開発型  
企業



最終報告会を終えて、左からチーム「わくわくワッフルボンバー」および「後藤ゼミ男」。新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインでのグループワークを中心に企画を進めてきた。慣れないコミュニケーションツールであったが、意思疎通をしっかりとするために、お互い声がけを頻繁に行うなど工夫をして完成させた。

#### 企画・活動概要

神戸イノベーターズグランプリは、流通科学大学主催の「社会共創プログラム」である。企業の課題に対して学生ならではの視点から発想した解決法を提案するコンテスト。2021年はワッフル・ケーキの店 R.L(エール・エル)の協力を得て、「時代の変化に適応した新しいスイーツ・ビジネスを考えよう!」というメインテーマに基づいて様々な企画提案を行った。後藤こず恵ゼミ(3回生)からは4チームが出場し、そのうち2チームが決勝に進出、1チームが第3位を受賞した。今年は新型コロナウイルス感染症により、企業訪問や本格的な試食会ができなかったが、オンラインのグループワークを実施し、グループで協力しながらユニークなアイデアを発想したり、エビデンスを積み上げたり、実現可能性の高い企画を策定したりした。



<https://www.umds.ac.jp/201226/>



<https://www.umds.ac.jp/200929/>

#### 経緯・背景・目的

R.Lは様々な味、形態のワッフルを店舗およびオンラインで販売しており、好評を博している。しかし、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響で、店舗における売り上げが低迷しているようだ。また、大きなトレンドとして少子高齢化が進む中、国内市場は縮小が続いており、新たな販売方法の展開や商品の投入が求められている。以上の背景に基づいて設定されたメインテーマに対して、以下のスケジュールで企画内容を作成した。

##### ★9月 開会式

開会式でのテーマ解題を受け、自分たちの興味のあるサブテーマの選定を行った。その際、自らの経験やホームページ、雑誌、新聞、SNSなどにおける情報を収集し、グループで納得できる意思決定した。

##### ★10月 質問会

##### ★11月 中間プレゼンテーション会

Zoomによるオンラインでの発表会であった。各チームに対してコメントをいただくことができ、その後のブラッシュアップが有意義になった。

##### ★12月 最終プレゼンテーション会(予選・決勝)

予選は録画、決勝は対面でのプレゼンテーションとなった。録画の際には納得がいくまで何度も繰り返し撮り直すなど粘り強く取り組むことができた。決勝では、大教室でのプレゼンテーションを経験することができ、強い印象が残った様子であった。

#### 取り組む課題

各チームが取り組んだ提案内容は以下の通り。

わくわくワッフルボンバー・・・ワッフルのサブスクリプションとデリバリーサービスの提案

後藤ゼミ男・・・ネットショップにおける高齢者向けギフトの提案

キュンキュンわっふるクリーム隊・・・美容ワッフルの提案

GoToJAPAN・・・アプリでオーダーするオリジナルパフェの提案

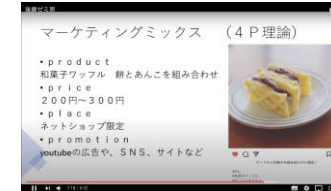
課題の設定にあたっては、自分達が良いと思うだけでなく、企業やそれを取り巻く市場環境を踏まえた上で取り組む意義があると確認することを促した。また、メンバー間で調整して、イメージ図や試作品などの作成を行うように助言した。

#### 本学(学生)の役割

本学学生の役割は、R.Lから提供された情報や自ら収集した情報に基づいて、学生ならではのユニークな発想に基づく企画提案を行うことである。これは多くの商品企画のコンペに共通して言えることだが、社会人経験を積むにつれ、成功体験や既存概念に捉われて自由な発想が難しくなることがある。そのため、学生は過度に既存のビジネスモデルに依拠することなく、ある程度新規性のある提案を行うことが求められる。重要なのは、新規性と事業性のバランスを取ることである。また、いうまでもないが、各種プレゼンテーションツールを使いこなし、企画内容を正確かつ魅力的に伝えることのできるコミュニケーションを行うことも求められている。これらの役割を果たすべく企画活動を行うことで、ビジネスパーソンとしての基礎的能力を高めつつ、社会に貢献できると考えられる。3回生は去年の神戸プリンに続いて2回目のI-1参加となるため、昨年度の経験も活かして自発的な気づきや行動を起こすように促した。

#### 活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

後藤ゼミ(3回生)からは4チームが出場し、そのうち2チームが決勝に進出、1チームが第3位を受賞した。ゼミ活動をする際には、次の3つの力を高められるように助言してきた。一つ目は、ユニークなアイデアを思いつく発想力、二つ目は、エビデンスを積み上げる分析力、三つ目は、現実的で実現可能性の高い提案をする企画力である。今年度は、ゼミ生の全員がオンライン授業を希望したため、ZoomおよびLINEを用いてオンラインのグループワークを行った。オンラインのグループワークを行う際は、司会進行役を決めておくことスムーズであった。これは対面のグループワークでも同じだが、オンラインの場合は通常より発言のタイミングがわかりにくいいため、司会進行役が意見を聞いていくことが求められる。初めは慣れない様子だったが、このようなコミュニケーションツールを使用しつつもメンバーは自らの意見をしっかりと伝えられるようになっていったように見受けられる。また、通学時間が必要ない分、グループワークの時間を延長したチームもあったため、困難な状況でも自分たちができることを探して実践していきう意欲が感じられた。



#### 指導教員および関係者の紹介

後藤こず恵 商学部 マーケティング学科 准教授  
ワッフルケーキのお店 R.L

井戸下 優奈  
岩瀬 太陽  
福田 凌平  
向 流星  
山本 尊生  
吉川 太都  
井上 由理  
大志万 詩葉  
小梅 浩一朗

小河原 愛美  
中井 玲緒  
西海 愛  
細谷 駿斗  
水野 綾香  
村田 智春  
吉田 樹生



“なりたい自分”を発見する。  
流通科学大学

[https://www.umds.ac.jp/wp-content/uploads/200923\\_01.pdf](https://www.umds.ac.jp/wp-content/uploads/200923_01.pdf)